

# 建設新聞



発行所  
建設新聞社

〒980-0821 仙台市青葉区春日町7-5

市外局番(022)221-下記番号

総務部 4601

FAX221-4633

編集部 4602

FAX217-4170

編集事業部 4603

FAX221-4637

営業部 4604

FAX268-6416

編集事業部情報室 4606

FAX221-4637

©建設新聞 2013

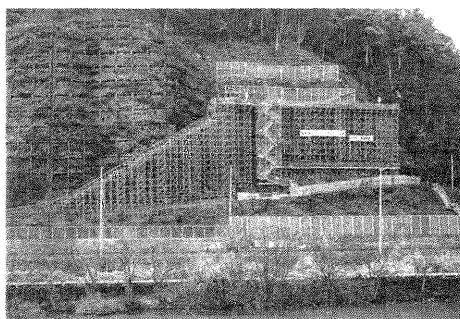
日綜産業

## 作業時間短縮、安全施工に効果大

山形県鶴岡市 機械構台法面8号が活躍

東北地方整備局酒田河川国道事務所発注の熊出地区防雪工事の現場で、日綜産業の法面機械構台システム足場工法(法面8号)が活躍している。

同工事は、山形県鶴



法面8号の全体。上に2段見えるのが設置完了した雪崩予防柵

岡市熊出地内で一般国道112号に近接した急斜面に、雪崩予防柵を設置するもの。施工は大栄(鶴岡市)が担当し、工期は7月11日から2014年1月20日まで。予防柵の

規模は、1基当たり高さ2、700ミリ×長さ30メートルで、これを4段設置する計画となっており、11月末までに上から2段が完成(進捗率75%)している。

法面8号は、予防柵を設置するためのボーリング工用構台として約150分が採用されている。施工場所は、平均斜度が5度と人が立つていられないほどの急斜面で、地盤が固い箇所も随所に見られるなど設置作業には困難を要し

たが、地元で各種仮設工事等に多くの実績を持つ有賀組の協力もあり、およそ2カ月で組み立てが完了した。また、構台の向かって左側には材料運搬用のモノレールを設置。そのため、全体がまるでジェットコースターのように、近くを通る山形自動車道からも良く見えることから多くの注目を集めていた。

今回、同現場で採用した法面8号は、国土交通省のNETISにも登録されており①組立・解体がハンマーだけで作業できるためスピーディー②構台作業床の外周に手すり・幅木の設置が可能で安全

に施工できる③組立後、重機や削孔機の振動によるクサビの緩みがない④製品の表面は溶融亜鉛メッキ処理しており、防錆性・耐久性に優れる⑤各部材は最小限・最軽量の大きさにより人手による運搬が容易といった特徴がある。すでに、全国の災害復旧工事現場などで活躍しており、大栄の大滝修二土木部工事部長も「足場を当初計画の単管パイプから法面8号にしたことで、作業時間が大幅に短縮でき、部材も少なく済んだ」とシステム足場の効果を高く評価していた。

## 日綜産業システム足場 急斜面の難工事に威力

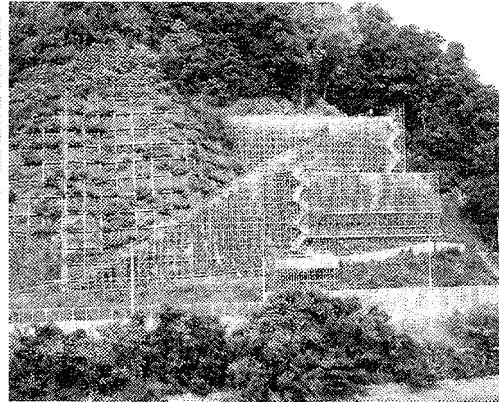
爽り多い庄内平野と日本海の恵みを受ける豊穡の地である一方、冬季には雪が多く、厳しい気候にさらされる山形県鶴岡市。幹線道路である国道112号沿いに、仮設の足場が圧倒的なスケールで設置されている現場がある。東北地方整備局酒田河川国道事務所の発注、大栄(鶴岡市)の施工で進められているのが「熊出地区防雪工事」だ。

同工事は、冬季の雪崩を防止するため、高さ2.7mの雪崩予防柵を4段、総延長120mにわたって設置する。しかし、現地の斜面は平均勾配が55度。「人も立てない急斜面」(大滝修二大栄土木部工事部長)という難工事での施工に当たって採用されたのが、日綜産業の法面機械構台システム足場工法『法面8号』だ。

ハンマーのみで組立・解体ができるため作業がスピーディーで、足場内での作業もできる。非常に厳しい設置環境に、足場計画は難航したもののシステムの利点と技能に優れた地元の篤工・有賀組(有賀哲社長)が組立を担当

### 熊出地区防雪工事

発注 東北地方整備局酒田河川国道  
施工 大栄



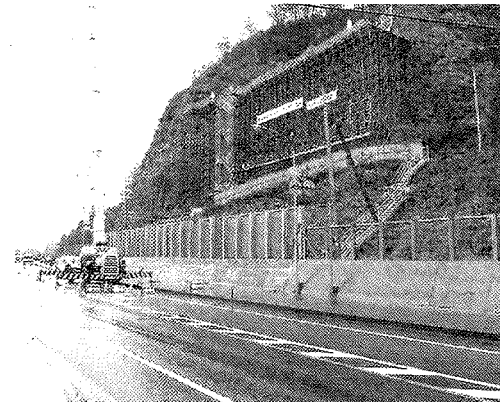
ジェットコースターを思わせるピーク時の仮設

したことで、8月下旬の作業開始からは「当初予定されていた単管パイプの足場と比べて半分の2カ月で作業を終えた」(大滝部長)という。

足場の転倒防止のため、法面の岩盤にはアンカー付鉄筋を全ジャッキに打ち込んで固定するなど、安全面にも万全を期している。

総重量150トにも及ぶ構台を最大54mの高さまで組み上げた壮大とも言える足場には、高所に資機材を搬出入する長さ240mのモノレールを設置。その様子は、まるで大型遊園地のジェットコースターを思わせる。

工事はこれまでに、上部2段目までの雪崩予防柵が完成しており、その部



上部の仮設がはずれ本来の雪崩防止柵が垣間見える

分までの足場は既に撤去されている。しかし、国道から斜面を見上げると目に入るのは依然として足場のみ。大滝部長も「足場しか見えず、傍から見ても何の工事をしているか分からない」と思わず苦笑いする。

元請けである大栄と協力会社との連携、日綜産業のシステム足場の活用などが相まって、難工事も順調に進み、11月末現在の進捗率は約75%。大滝部長は「ここまで来たら無事故・無災害を継続しながら、雪が降る前に完成させたい」と語る。

地域に寄せる地元建設業の愛情と高い技術力が、地域住民の安全と生活を下支えしている。

# 建設通信新聞

発行所 日刊建設通信新聞社  
〒101-0054  
東京都千代田区神田錦町3-13-7  
電話(03)3259-8711  
FAX(03)3259-8730  
振替貯金口座00190-2-97953  
©日刊建設通信新聞社 2013